

# 救急医療体制検討特別委員会

(令和3年度)

## 救急医療体制検討特別委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 救急医療体制検討特別委員会

委員長 志馬 伸朗

### I. 委員会の開催

2021年11月15日に第1回特別委員会を、2022年2月28日に第2回特別委員会を開催した。

### II. 調査研究の内容

#### 1) 救急医療情報ネットワーク（救急・搬送支援システム）について

現行のシステムは、平成26年10月から稼働開始し、議論の主な対象となる。消防機関におけるシステムの利用状況について、搬送実績等の入力率は年々低下しており、圏域において受入先が決まっていることからシステムを必要としない場合や消防OAシステムへの入力の上重業務になることなどから、現在では約半数の消防機関の入力率が50%を下回っている現状がある。このまま次期システムを開発した場合、現行システム同様に使われないシステムとなる恐れが非常に高いこと、救急医療情報ネットワークのほかの構成システムの今後の合意形成が図られていないことから、現行契約を令和5年9月まで延長し、地域の実情に応じたニーズをより深く確認し、救急・搬送支援システムの休止も含めて慎重に検討することとした。

広島県健康危機管理課から、現行システムの機能と利用の実態を踏まえ、更新を検討する上で論点と

なるシステムの必要性、導入目的、必要な機能について、広島県の考えを説明された。地域において救急医療関係者で検討を進めるため、令和3年度中に本地対協委員と各圏域の消防・医療機関が参画する広島県メディカルコントロール協議会救急搬送・医療提供体制検討部会委員を対象に、システムの目的と機能についてアンケートによる意見照会を行い、再度整理し、次回の本委員会にて結果を報告するとともに検討の方向性について改めて協議することについて、承認された。

#### 2) 第7次広島県保健医療計画（救急医療対策）に係る進捗状況について

各目標項目の達成状況（令和2年度）と計画の最終年度（令和5年度）までの今後の取組方針について広島県から報告があった。委員からは、データをより精査し、内容を見直した上で、第8次の計画策定に向け、対策も具体的な特化したものとして改善すべきとの意見があった。

#### 3) その他

働き方改革により救急医療体制が変わり、基幹病院が受け入れる救急の輪番が成り立つのか懸念されるため、令和6年度以降の二次救急、輪番体制の強化などについても中長期的に検討していく必要があると意見があった。

広島県地域保健対策協議会 救急医療体制検討特別委員会

委員長 志馬 伸朗 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学  
委員 板本 敏行 県立広島病院  
今井 茂郎 呉共済病院  
岩崎 泰昌 呉医療センター・中国がんセンター  
上野 宏泰 尾道市医師会  
大下慎一郎 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学  
大田 泰正 脳神経センター大田記念病院  
大本 崇 広島県医師会  
岡野 博史 広島赤十字・原爆病院  
楠 真二 県立広島病院  
久保 達彦 広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学  
貞森 裕 福山市民病院  
嶋谷 邦彦 広島西医療センター  
住居晃太郎 安芸地区医師会  
瀬浪 正樹 JA尾道総合病院  
世良 昭彦 広島市立安佐市民病院  
田中 幸一 市立三次中央病院  
遠山 郁也 広島市健康福祉局保健部医療政策課  
内藤 博司 広島市立広島市民病院  
中川 五男 中国労災病院  
中田 徹 広島県消防長会  
中村 裕二 庄原赤十字病院  
西田 翼 広島大学病院危機医療センター  
西野 繁樹 広島県医師会  
浜田 史洋 日本鋼管福山病院  
平尾 健 広島県医師会  
平川 治男 広島県医師会  
藤原恒太郎 興生総合病院  
前田 正人 三原赤十字病院  
増井 博文 広島県健康福祉局健康危機管理課  
光野 雄三 呉市医師会  
宮阪 英 福山市医師会  
宮本 典明 広島県危機管理監消防保安課  
村田 裕彦 広島共立病院  
森田 悟 東広島医療センター  
吉田 研一 JA広島総合病院